

# □ 合 唱

## 保 延 裕 史

1. 2016年は合唱界にとって馴染み深い2人の作曲家、武満徹と柴田南雄のともに没後20年であり、その業績を振り返って多くの演奏会が開催された。ことに柴田南雄は生誕100年にも当たり、関係の深かった東京混声合唱団を中心に作品が取り上げられた。中でも11月に行われ、第71回文化庁芸術祭大賞を受賞した「記念演奏会・山田和樹が次代につなぐ音楽」では、柴田が日本の伝承と合唱を結び付ける独自のスタイルを確立したシアター・ピース「追分節考」と「交響曲・ゆく河の流れは絶えずして」(山田和樹指揮、日本フィル、東京混声cho、武蔵野音大cho)が、柴田の音楽の集大成であることを強く意義づける記念碑的演奏となった。一方、武満作品では、NHK音楽祭2016において「マイ・ウェイ・オヴ・ライフ〜マイケル・ヴァイナーの追憶に」(T・ソヒエフ指揮、N響、東京混声cho)が印象に残る演奏であった。

2. 前述メモリアル・イヤーの作曲家の作品の優れた公演を含め、プロ合唱団の水準の高い演奏が目立った。東京混声合唱団は創立60周年を記念して定期演奏会などに特別なプログラムを組んだ(詳細は後述演奏会リスト参照)。また合唱音楽普及のための特別演奏会等を各地で開催した。併せて、創立からこの合唱団を指揮し続けている桂冠指揮者・田中信昭氏が文化功労者に選出されたことは、60年の節目に相応しく合唱界にとっての快挙であった。一方、指揮者を置かない独自の路線を歩むハルモニア・アンサンブルは、「柴田南雄生誕100年記念個展」(9月、第8回定期、「優しき歌第二」「萬歳流し」「無限曠野」等)の演奏会、作品の委嘱や録音に加え、米国からB・オールレッド氏を招き合唱音楽祭・第1回ハルモニア・アンサンブル国際フェスティバルを11月に開催して旺盛な活動を示した。

3. 引き続きフェスティバル関係では、Tokyo Cantat2016でテーマ「やまとうたの脈Ⅶ」に沿ったコンサート、セミナーと第5回若い指揮者のための合唱指揮コンクールが開催された。海外から著名な合唱指揮者を招聘して多くを学び、さらに現代における合唱の意味を探求する試みが20年を経て定着したことはまことに喜ばしい。

4. 次に本年注目の合唱演奏会を挙げておく。1月 第13回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン「イエフタ」(三澤寿喜指揮)、新日本フィル定期・ブリテン「戦争レクイエム」(D・ハーディング指揮、栗友会cho、東京少年少女合唱隊)、仙台フィル定期・メンデルスゾーン「エリヤ」(山田和樹指揮、仙台フィル「エリヤ」cho)、2月 びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演・沼尻竜典指揮「日本の合唱音楽の古典Ⅳ」、3月 ラ・ブティック・バンド・バッハ「マタイ受難曲」(S・クイケン指揮)、聖トマス教会cho&ゲヴァントハウス・バッハ「マタイ受難曲」(G・シュヴァルツ指揮)、東京シティ・フィル定期・ドヴォルザーク「レクイエム」(高関健指揮、東京シティ・フィル・コア)、東京混声cho定期(下野竜也指揮、ピツェッティ「レクイエム」他)、神戸市混声cho春の定期(藤井宏樹指揮)、4月 読響定期・フィンジ「霊魂不滅の啓示」(下野竜也指揮、二期会cho)、日本フィル横浜定期・ヴェルディ「レクイエム」(P・

インキネン指揮、晋友会cho)、東京・春・音楽祭・合唱の芸術シリーズvol.3・デュリュフレ「レクイエム」(L・フセイン指揮、東京オペラシンガーズ)、新日本フィル定期・ラヴェル「ダブニスとクロエ」(準・メルクル指揮、栗友会cho)、東響定期・ブラームス「ドイツ・レクイエム」(J・ノット指揮、東響コーラス)、東京フィル定期・グリーグ「ペール・ギュント」(M・ブレトニョフ指揮、新国立劇場cho)、仙台フィル定期・ベルリオーズ「レリオ、または生への回帰」(P・ヴェロ指揮、第300回定期記念cho)、5月 ラ・フォンテヴェルデ定期「モンテヴェルディ・マドリガーレ集第5巻」、新日本フィル定期・黛敏郎「涅槃交響曲」(下野竜也指揮、東京藝大cho)、ザ・キングス・シンガーズ、バッハ・コレギウム・ジャパン定期・教会カンタータシリーズvol.70(鈴木雅明指揮)、ウィーン少年合唱団(O・シュテッヒ指揮)、6月 関西フィル・ハイドン「天地創造」(高関健指揮、関西フィルcho)、7月 新日本フィル定期・マーラー交響曲第8番「千人の交響曲」(D・ハーディング指揮、栗友会cho、東京少年少女合唱隊)、東京シティ・フィル定期・ブルックナー「テ・デウム」(飯守泰次郎指揮、東京シティ・フィル・コア)、ヴォクスマーナ定期・創団20周年シリーズvol.1「未来を担う女性作曲家」、大阪フィル定期・パカロフ「ミサ・タンゴ」(井上道義指揮、大阪フィルcho)、8月 東混・八月のまつり・林光「原爆小景」[宮沢賢治の詩による混声合唱曲集]他(大谷研二指揮)、湯浅譲二合唱作品による個展(西川竜太指揮、ヴォクスマーナ他)、東京混声choいずみホール定期・新実徳英「混声合唱とピアノのための黙礼スル第1番」他(田中信昭指揮)、9月 N響・マーラー・交響曲第8番「千人の交響曲」(P・ヤルヴィ指揮、新国立劇場cho、栗友会、NHK東京児童cho)、びわ湖ホール声楽アンサンブル・田中信昭指揮「美しく楽しい合唱曲の夕」、日本フィル横浜定期・メンデルスゾーン「エリヤ」(大井剛史指揮、日本フィル協会cho)、東京シティ・フィル定期・ベルリオーズ・劇的物語「ファウストの劫罰」(高関健指揮、東京シティ・フィル・コア、江東少年少女cho)、群響定期・フォーレ「レクイエム」(大友直人指揮、群響cho)、東響定期・ベルリオーズ「ファウストの劫罰」(H・スダーン指揮、東響コーラス、東京少年少女合唱隊)、大阪コレギウム・ムジクム「邦人合唱曲シリーズ」寺嶋陸也。混声合唱、ピアノと三線のための「沖縄のスケッチ」他(当間修一指揮大阪ハインリッヒ・シュツ室内cho)、札幌定期モーツァルト「レクイエム」(M・ボンマー指揮、札幌cho)、10月 東京混声cho定期(田中信昭指揮、委嘱作品。初演・平川加恵「音の歳時記」他)、W・クリスティ&レ・ザール・フロリサン「声の庭」、新日本フィル定期・ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」(H・ヘンヒェン指揮、栗友会cho)、日本センチュリー響・プロコフィエフ「アレクサンドル・ネフスキー」(A・ブリバエフ指揮、大阪センチュリーcho、大阪音大cho)、11月 バッハ・コレギウム・ジャパン定期・バッハ「ミサ曲口短調」(鈴木雅明指揮)、合唱団響・西村朗・合唱オペラ「中世」(栗山文昭指揮)、A・ゼッダ指揮スペシャル・コンサート・ロッシェニ「スターバト・マーテル」他(藤原歌劇団合唱部)、東京混声cho定期・大澤壽人=廣田はる香「小ミサ曲」、藤倉大「ざわざわ」(委嘱)ともに初演(山田和樹指揮)。

5. 最後に、音楽評論界の重鎮、宇野功芳氏が6月、86歳で逝去された。宇野氏は国立音大声楽科時代より合唱指揮者を志し、日本女声合唱団、神戸市混声合唱団、アンサンブル・フィオレットティなどを指揮し滋味溢れる演奏で敬愛を集めた。謹んでご冥福をお祈りする。